

—シリーズ—

8K放送

カウントダウン③

2016年の8K試験放送開始に向け
突き進む技術開発等の
最新動向をシリーズで追う。

今、放送業界の話題の中心となっている8Kスーパーハイビジョン（以下、8K）。国のロードマップでは2016年には試験放送が、2018年までには実用放送が始まる予定である。8Kは、ご存じの通りNHK放送技術研究所（以下、技研）が次世代の放送サービスとして研究開発を進めてきた技術である。この8Kをはじめ、技研の研究開発成果を一般に公開する毎年恒例の「技研公開」が、5月28日（木）～31日（日）に技研（世田谷区砧）で開催される。通算69回目となる今年の技研公開について、8K技術への取り組みなどを中心に、技研所長の黒田徹氏に聞いた。

●聞き手：吉井勇・本誌編集長、構成：古山智恵・編集部、写真：大高英樹

黒田NHK技研所長に聞く

第69回技研公開は 「究極のテレビへ、 カウントダウン！」がテーマ

8K放送の実現を目指す技術など
最新の研究成果のうち26項目を展示

黒田 徹 Kuroda Toru

NHK 放送技術研究所 所長

1982年NHK入局。1985年より放送技術研究所において、FM多重放送、デジタル伝送、地上デジタル放送方式（ISDB-T）の研究に従事。1999年より技術局にてデジタル放送の立ち上げに従事。総合企画室を経て、2009年、放送技術研究所 放送ネットワーク研究部長、2011年、同 研究企画部長、2012年、同 副所長、2014年より同所長として、放送通信連携サービスのハイブリッドキャストや8Kスーパーハイビジョンなどの研究開発を推進。放送文化基金賞、市村学術賞・貢献賞、C&C賞などを受賞。工学博士。

Kuroda
Toru

